51th
東京城東ロータリークラブ週報
国際ロータリー第2580地区

2017.　6.　19　　第2388回例会

感謝の心で 奉仕と親睦を

東京城東ロータリークラブ会長　細谷　貞治

例会日　毎週月曜日　12:30 ～ 13:30
例会場　〒 130-0013　墨田区錦糸1-2-2　TEL 5611-5511
東武ホテルレバント東京
事務局　〒 130-0013　墨田区錦糸1-1-5
TEL 5637-4605　FAX 5637-4611
事務局　天尾　文（伊藤）
E-mail　jyoto@club.email.ne.jp

会　長	細谷貞治	副会長	阿　部　豊
幹　事	兒玉正行	副幹事	江波戸健治
		会報委員長	池永憲明

ＲＩ会長
ジョン F. ジャーム
第2580地区ガバナー
上 山 昭 治
第2580地区幹事
田 中 永 二
ガバナー補佐：鈴木秀史
(東分区担当)
東分区幹事　：瀧澤一郎
東分区副幹事：鈴木正名

人類に
奉仕する
ロータリー

本日の卓話

「 高齢者医療の問題点 」

内科医師･元会員
小野 清四郎 氏

2017/6/12（月）
『 史上最大の警備作戦 』
(株)リスク・マネジャー
西久保 博信 氏

ニコニコボックス

○西久保様、卓話よろしくお願い致します。
兒玉正行君・阿部　豊君・江波戸健治君
渡辺孝至君・山﨑富士夫君
○本日のプロジェクト実施委員会、よろしくお願い致します。
池永憲明君・佐野一信君・出店要蔵君
○お祝いを頂いて。
山口幸一君・重田敦史君・大塚伸也君

小計￥33,000.-　累計￥2,454,000.-

2017年6月12日 例会報告

点　鐘
ロータリーソング　『手に手つないで』
ゲストスピーカー　1名
ゲスト及びビジター　2名
会員出席状況　49名中43名(出席率87.76%)
前々回訂正出席率　100%

- 6月の受付当番 -

梅野君/江波戸君/上條君/岸田君/重田君

次回の卓話

「 一年を顧みて 」

細谷 貞治 会長
兒玉 正行 幹事

内容充実の為に、皆様からの投稿をお待ちしております！

▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽

ＲＩ国際大会速報：2017.6.13

▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△

【ＲＩ国際大会基調講演】ビル・ゲイツ氏、ポリオ撲滅まで最後の一押しを強調

6 月 12 日にロータリー国際大会で講演したビル・ゲイツ氏は、ポリオのない世界に向けた大きな進歩と今後の課題を強調しました。

アメリカジョージア州アトランタのジョージア・ワールド・コングレスセンターにて、ゲイツ氏は、LED ブレスレットを着用した 2 万 2 千人以上の観衆に向け、ポリオ症例をゼロにするための努力を続けなければならないと訴えました。

ビル＆メリンダ・ゲイツ財団の共同会長であるゲイツ氏は、世界ポリオ撲滅推進活動（GPEI）を「世界でこれまでに行われた最も野心的な公衆衛生の取り組み」とし、これまでの歴史的マイルストーンを振り返りました。各地域のポリオフリー宣言を含め、マイルストーンごとに、会場の各セクションで LED ブレスレットが点灯。ブレスレットを着用した出席者もプレゼンテーションの一部となりました。全世界でこの麻痺疾患を撲滅するため、革新的かつ先見的な役割を果たしてきたロータリーに感謝する、とゲイツ氏。

1994
アメリカ大陸がポリオフリーと認定されました

2000
西太平洋地域がポリオフリーと認定されました

2002
ヨーロッパがポリオフリーと認定されました

2017
残るはパキスタン、ナイジェリア、アフガニスタンの3カ国におけるわずか5件

GPEI の取り組みが始まって以来、ポリオ症例は年に約 35 万件から 99.9％減と驚異的に減少。いまだ野生型ポリオウイルスが常在するのは、アフガニスタン、ナイジェリア、パキスタンの 3 カ国のみです。

これまでの撲滅活動がなければポリオを患ったであろう 1600 万人以上が、今日、麻痺の影響を受けずに歩くことができると指摘。「これほどの活動努力は驚異的です。ポリオ撲滅は私が最も多くの時間を費やしていることであり、毎日、新しい発症例があるかどうかをメールでチェックしています。私は、この大きな活動の一部であることを誇りに、そして光栄に思います」

同日の本会議の直前、世界各国の指導者がゲイツ財団とロータリーに加わり、ポリオ撲滅を達成するために GPEI が見積もる活動不足金 15 億ドルを補うため、新たな寄付誓約 を発表しました。ロータリーは、寄付目標を年間 5 千万ドルに引き上げると発表。ゲイツ財団とロータリーは 2007 年に協力を開始して以来、ポリオ撲滅に向けてともに約 15 億ドルを提供しています。

ポリオ撲滅を過去 10 年間の最優先課題としてきたと話すゲイツ氏は、現在もポリオが発症している紛争地域において未だに課題が残っていることを認識しています。「最も困難なことの一つは、一人残らず全ての子供達にワクチンを届けること。しかし、紛争地域ではあらゆる関係者と信頼を築くことが難しく、予防接種が容易には進みません。ポリオを撲滅する唯一の方法は、政治的、宗教的、社会的な分裂を超えて協力すること。ポリオ撲滅活動の支援者がその説得を続けてきたからこそ、今、成果が表れています」

発症数がかつてないほど少ない一方で、ウイルスのサーベイランス（監視）と検出が困難になっています。全世界で 146 の研究所のネットワークが、毎年、約 20 万件のポリオウイルス検便検査を行っており、その 99.9％が陰性です。陽性結果はほんの一部ですが、保健当局が予防接種活動に集中してウイルスの感染を防ぐのに役立っています。さらに、ポリオが今だ発症している国では、ウイルスが下水中で短時間生き残ることができるため、125 の環境検出サイトを検査しています。

ポリオ撲滅活動に触発されたイノベーションは、ほかの世界的な健康キャンペーンに幅広い利益をもたらすことができる、とゲイツ氏。地域調査、病気の監視、医療従事者の役割拡大などの技術は、保健当局がエボラのようなほかの感染症を検出して緊急対応するのにも役立ちます。「それこそ、ロータリーの 30 年にわたる闘いで大きく期待が持てることです。皆さんは、史上最悪の疾病の一つを撲滅するだけではありません。最貧国が市民により良い健康とより良い未来を提供するのも支援しているのです」